

国連事務総長メッセージ
(東京、2014年4月2日)

世界自閉症啓発デーを記念して日本で開催されるこの大切なシンポジウムに寄せてご挨拶のメッセージを送らせて頂きます。

はじめに、先の「障害者の権利に関する条約」の批准について、この場をお借りして日本国を称えたいと思います。この条約は、自閉症のある方々をはじめとする全ての方々の為の共生社会や開発の強力な枠組みを提供するものです。

教育や情報、雇用、医療、社会福祉、そして包摂的意思決定へのアクセスなどの重要な問題についての議論を通じた「全ての方々のための社会」の推進の模索というこのシンポジウムの焦点を私は歓迎致します。

国連は全ての方々のための包摂的で開かれた平等社会や開発の推進に数十年にわたり尽力しています。しかし自閉症のある方々は、今でも偏見や差別や排斥に直面しています。私たちはこうした態度を改めて、障壁を取り除き、取り組みを強化して、自閉症のある方々の完全な社会参加を促進する必要があります。私は、日本政府がこうした取り組みにおいてこれからもリーダーシップを発揮されるものと期待しています。

今年の世界自閉症啓発デーは、自閉症スペクトラム障害のある方々の創造力を讃える機会、そして、これらの方々がその素晴らしい可能性を発揮できるようにすることを再び誓う機会となることでしょう。

私は、自閉症に関係する方々、ご両親や子ども達や先生や友人の方々とお会いすることを大切に考えています。これらの方々の強さにはいつも元気づけられます。こうした方々には、教育や雇用や社会融合のための可能な限りのあらゆる機会が提供されるべきです。

私たちの社会としての成功の度合いを測るには、自閉症のある方々を含む様々な能力の方々が大切に価値のある構成員としてどの程度社会融合されているかを調べるべきです。

鍵となるのは教育と雇用です。学校は子ども達とコミュニティをつなぎます。仕事は成人の方々と社会をつなぎます。自閉症のある方々も同じ道を歩むことができるべきです。公立学校に様々な学習能力の児童を含めることにより、私たちは態度を変えることや、尊重を促進することができます。自閉症のある成人の方々に適した仕事を創出することにより、私たちはこうした方々を社会に融合することができます。

自閉症のある方々に力を与えれば、それは現在そして未来の世代に役立つのです。

悲しいことに、これらの方々は世界の多くの場所でその基本的人権が否定されています。偏見や差別や排斥と戦っています。そして、その権利が保証されている場所にあっても、基本的な社会福祉を受けるために戦わなければならない場合が少なくありません。

国連の「障害者の権利に関する条約」は、全ての方々にとってより良い世界を創造するための取り組みの強力な枠組みを提供します。

世界自閉症啓発デーは、単に理解を広げることを目的とした日ではありません。この日は行動を起こすきっかけとする日です。私は、関わりのある全ての人々が、私たちの共有ビジョンであるより包容的な世界の実現に役立つ教育プログラムや雇用機会やその他の取り組みを支援して、発展の促進に参加されることを強く要請します。

皆様の積極的な関わりに心から感謝すると同時に、皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げます。